

桜蔭俳話会 十一月句会 (第三二〇回)

平成二十五年十一月二十三日(土)

こども自然公園・及び畠山地蔵尊(旭区) 吟行

5点② 返り花今日一日を宝とす

清子

4点① 老いの輪の笑ひ高々返り花

友子

4点 古戦場跡の町並冬日向

友子

3点① リュックから首出る大根吟行日

ヤエ子

冬の蜂集合住宅古びをり

ヤエ子

日時計の時間正確冬うらら

ヤエ子

捨案山子十基一列教育田

秀一

2点② 幾度の紅葉且つ散る重忠碑

秀一

① 裸木や街の骨格見えて来し

守

① 魚釣りの親子勤労感謝の日

友子

地上絵のごとく五色の冬堇

明美

ジャングルジム攀じ上る子の軽き咳

明美

幼子の寄りくる丘や木の実降る

清子

1点 遺烈碑の掃かれし落葉郷土愛

幸

神の指示待つかのやうに冬の蝶

守

乳母車二人で押しし小春かな

ツル子

柿の葉を拾ひ青空透かし見る

邦子

冬紅葉散り敷く中の岐れ道

友子

水田の鳥の声聴く案山子かな

邦子

憂きことのひとつふたつや小春空

友子

滅びゆくものみな美しき冬紅葉

守

木々は皆葉を落ちつくし冬支度

邦子

お仲間と初の吟行小春空

清子

池の中紅葉の島の輝やけり

真三

自然薯のこんがらかつて黄葉す

ツル子

しばらくは水に遊びし落葉かな

守

餌を持ちし子の乱しをり鴨の陣

秀一

迷ひたる寒林に滲む鳥のこゑ

明美

天高く地は秋色の花に満つ

邦子

心なしか十月桜淋しけり

邦子

冬日和池を背にして立ちにけり

真三

紅葉散るもう子供には戻れない

守

※柿の実の影白壁に映りをり

ヤエ子

庚申塚菊供へ右大山道

秀一

釣り竿の紅葉の池に何釣るる	真三
密やかに水のこゑ聴く冬の池	明美
朝日照る寄り添ふ鴨の音もなし	ツル子
落葉舞ふ重忠公の遺跡あり	清子
遺烈碑の掃き清めし落葉	幸
橋より見紅葉の池に白き札	真三
大紅葉薄きも松と色はえて	真三
水底に写る木の葉の宿りをり	ツル子
我が座る日陰のベンチ鴨寄れり	秀一
秋風やひづめ・いななき宙に消ゆ	幸
地藏尊守る地元の紅葉彩	幸
水に映ゆ紅葉の面泳ぐ鯉	幸
浮島や紅葉と松のコントラスト	幸
水鳥の滲銀色に一直線	ヤエ子
淋しさに冬鳥を呼ぶ。パンの屑	明美
重忠の史跡に馳せて菊の花	ツル子

(不在投句 古野明美)

「事務局よりお知らせ」

① 十二月の定例会

- ・日時 十二月二十三日(月) 午後一時三十分
- ・場所 旭区民文化センター・サンハート

② 一月の定例会

- ・日時 一月二十六日(日)午後一時三十分
- ・場所 旭区民文化センター・サンハート